

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460

2023(令和5)年

仏暦2566年

7月号

(第142号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホツがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

光あふれる和讃六首引

引き続き、阿弥陀仏の十二光の働きが六つあげられています。正信念仏偈のお勤めには、本文の後に念仏をはさみながら和讃六首が繰り読まれます。親鸞さまの著「浄土和讃」の「讃阿弥陀仏偈和讃」から始まり、そこにも十二光が順に詠まれていきます。
道光明朗超絶せり
清浄光仏とまうすなり
ひとたび光 照かぶるもの
業垢をのぞき解脱をう
(阿弥陀仏のさとり光は明るく輝き、すべてに超えすぐれて清らかであるから、清浄光仏と申しあげる。ひと

「現代語訳」
清浄光・歡喜光・智慧光
不断光・難思光・無称光
正信念仏偈に学ぶ
清浄・歡喜・智慧
不断・難思・無称光

たびこの光に照らされたものは、悪い行いの罪や煩惱が除かれ、みなさとりを聞くのである。慈光はるかにかぶらしめ、ひかりのいたるところには法喜をうとぞのべたまふ
大安慰を帰命せよ
(阿弥陀仏の慈しみの光はひろくあらゆるものを照らし、その光の至り届くところでは、すべてのものが喜びの心を得るといわれている。大なる安んじと慰めを与える無明の闇を破するゆゑ
智慧光仏となづけたり
一切諸仏・三乗衆
ともに嘆賞したまへり
(阿弥陀仏の光は無明の闇をすべて破るから、智慧光仏と申しあげる。すべての仏も菩薩も縁覚も声聞も、みなともにほめたたえておられる。)
光明でらしてたえざれば
不断光仏となづけたり
聞光力のゆゑなれば
心不断にて往生す
(阿弥陀仏の光は絶えること

なく照らし続けるので、不断光仏と申しあげる。その光のはたらきを聞く信心もまた絶えることなく、往生することができる。)
仏光測量なきゆゑに
難思光仏となづけたり
諸仏は往生嘆じつつ
弥陀の功徳を称せしむ
(阿弥陀仏の光はかり知ることができないから、難思光仏と申しあげる。あらゆる仏がたは、すべてのものを往生させる阿弥陀仏の功徳とそのはたらきをほめたたえておられる。)
神光の離相をとかざれば
無称光仏となづけたり
因光成仏のひかりをば
諸仏の嘆ずるところなり
(阿弥陀仏のすぐれた光は姿かたちを超えており、言葉で説き示すことができないから、無称光仏と申しあげる。光明無量の願を因とする光のはたらきは、あらゆる仏がたにほめたたえられる。)
このように、光あふれることばから和讃六首引は始まります。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

三、お墓と納骨

―亡き人を偲ぶ縁として―

「お寺での墓参り」

本堂を素通りしていませんか？

私のお寺には、本堂の裏手に小さな境内墓地があり、ご門徒のお墓が並んでいます。そのお墓にお参りするご門徒の様子を見ると、およそ次の三タイプがあります。

一つは「お墓に参る時は決まって本堂へ上がり、ご本尊の阿弥陀さまに礼拝する」。二つ目は「本堂へは上がらないが、外から礼拝する」。三つ目は「本堂は知らん顔で素通りし、お墓だけお参りする」です。

そして、残念ながらこの三つ目のタイプが一番多いようなのです。

先日、お墓参りだけをすませて帰ろうとしていたご門



徒に気づき「どうぞ本堂へお上がりください」と声をかけたのですが「ちよつと急ぎますので、これで失礼します」とつれない返事…。こちらの願いはなかなか通じませんでした。

もしお寺にお墓があるのなら、お墓参りの際、ぜひ本堂のご本尊に合掌礼拝していただきたいのです。

お寺の境内墓地というのは、宗旨宗派を問わない公共墓地とは違い、信仰を同じくする者がその教えの道場である本堂の傍に設けた宗教施設であり、心から敬うご本尊のおひざ元にあるお墓なので

す。ちよつとご本尊の仏さまに抱かれた形で先祖のお墓があるわけで、これほど恵まれた環境の墓地はないと言ってよいでしょう。

この境内墓地にお墓を建てられたご先祖のお心を思えば、仏さまに知らん顔をして本堂を素通りすることはできないはず。きつと、ご先祖は「へお墓があることによつて」少しでもお寺に足を運んでくれるように、そして仏縁を深めてくれるように」と子孫に願われていることでしょう。ご先祖が「親心」を込めて用意してくださったせつかくの仏縁を無にしないよう、お願いします。

さらに言えば、わが家に帰った時でも、また他家を訪れた時でも、親やその家の主人にまずあいさつするのが常識です。その点から言っても、「まことの親」であり、ご主人である阿弥陀さまにごあいさつするのは、むしろ当然なのではないでしょうか。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

年忌法要表

1周忌	2022(令和 4)年	23回忌	2001(平成13)年
3回忌	2021(令和 3)年	25回忌	1999(平成11)年
7回忌	2017(平成29)年	27回忌	1997(平成 9)年
13回忌	2011(平成23)年	33回忌	1991(平成 3)年
17回忌	2007(平成19)年	50回忌	1974(昭和49)年

編集後記

「住職法話」の正信念仏偈に学ぶは、和讃の紹介だけになりました。和讃に興味ある方は、本願寺出版社の「三帖和讃(現代語版)」をおすすめします。一つひとつ味わいながら読めると思っています。◆猛暑酷暑が続くようです。御身大切にお過ごし下さい。

